

## 2023 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
教育学部 子ども発達学科	教授	西崎 有多子
最終学歴	学 位	専門分野
コロンビア大学大学院修士課程修了	MA	英語教育

### I 教育活動

#### ○理念・目標・方針・計画（方法）

##### 【理念】

現在の英語教育、特に小学校英語教育を理論・実践の両面から理解し、その目標を達成できる教員養成に寄与する。特に、児童の毎日の生活や体験を通して、教科書の中の英語ではなく実生活に即した学びを常に考えながら児童の実態に合わせた指導ができる教員養成する。

##### 【目標】

3・4年生での各学生の希望する将来を見据えた活発なゼミ活動、ならびに全学共通科目の英語科目における学生の英語に関する興味関心と自発的学修意欲向上

##### 【方針】

学生一人ひとりが、しっかりと自己分析をした上で自らの将来に対して何をすべきかを把握し、自主的に前進するための必要なアドバイスを行なう。英語に関しては、色々な言葉や表現を簡単な英語に置き換えて表現できる英語力を養い、英語を身近なものできるようにする。

##### 【計画（方法）】

ゼミ内の学生同士（3・4年も含め）の交流を活発に行い、全員が初等教育コースに所属しているため、小学校教員を想定した指導を多角的・実践的に行う。具体的には、教職に就いているゼミの先輩学生たちとの交流を計画。コロナも収まり、学外演習も計画する。

##### 【担当科目】

（前期）

英語Ⅰ、英語Ⅲ、小学校英語、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

英語Ⅱ、英語Ⅳ、小学校英語教育法、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究

#### ○教育方法の実践

専門演習の学生は3・4年生共、初等教育コースの学生であるため、主に小学校教育についての諸問題を取り上げた。英英辞典の活用を含む英語力向上、小学校英語における実践的な教材活用の体験等に加えて、ゼミの先輩で愛知県東海市で教諭をしている現職教員とオンラインでつないで、事前に送った質問に答えてもらうと共に、その場で教員採用試験の勉強方法や小学校での勤務内容など詳しく情報交換を行うことができた。教育実習前には、実習に役立つ資料の作成、短時間でできる英語のゲームの練習等も行った。教員採用試験対策としては、先輩が受験した実問題のコピーも活用して出題傾向を把握、英語に関する問題については、愛知県ならびに受験する地域の多くの過去問題に挑戦し、疑問点の解消や正解を導くコツを学べるようにした。日頃から教育に関するニュースや記事をゼミでシェアし、問題点を討論したり、解決方法などを議論し、問題意識を高め、自ら解決する力の育成に努めた。卒業研究については、全体指導と併せて、個別指導も時間をかけ

て何度も行い、学生も応えてよく努力して完成させることができた。

英語科目については、例年通り、教科書と英語のことわざの他、毎回オンラインで最新の海外のニュース等にも触れ、視野を広げながら知らない英語も読んでみるという姿勢を持てるように指導した。授業後も自分で海外のニュースを検索するようになった学生もいた。

#### ○作成した教科書・教材

上記のような教育実践において、補助的プリントや教材をその都度数多く作成して使用した。

#### ○自己評価

学生がそれぞれの夢を達成できるよう、個別の状況を把握しゼミの学生指導を中心に注力した。4年のゼミ生8名のうち、5名は小学校教員を希望し、計8試験に合格した。内一名は合格を辞退し大学院へ進学、4名は希望する都道府県を選んだ上で教諭となった。2名は民間企業、1名は発達障害児の施設への就職、全員が希望を果たすことができた。それぞれの学生に対して時間をかけて個別指導を行い、結果を出すことができた。

## II 研究活動

#### ○研究課題

小学校英語に関する研究、小学校教員に必要な英語指導力、ならびに本学における英語教育に関する研究

#### ○目標・計画

##### 【目標】

小学校英語に関する研究と本学の学生に適した英語学習・小学校英語指導法の開発を行う。

##### 【計画】

新学習指導要領に即した新しい小学校英語の在り方について現状を踏まえて研究する。特に、実際に使える英語、自発的な内容を尊重する英語にふさわしい小学校英語教育とは何かについて具体的な指導法についての提案ができるようにしたい。一人ひとりの模擬授業の事前事後を有効に活用し、本学の学生に適した英語教育ならびに教職課程における小学校英語の指導について改善に努める。各自が行う模擬授業等に対して、学生同士の意見交換を活発に行い、授業を行なう上でのポイントを各自が把握して改善できる力をつけ、指導法の改善に対する意識を高める。

#### ○2016年4月から2024年3月の研究実績（特許等含む）

##### （著書）

- ・白井克尚・今津孝次郎・山本かほる・伊藤数馬・丹下悠史・水野正朗・柿原聖治・西崎有多子『教員養成におけるアクティブ・ラーニングの実践研究』地域創造研究叢書 No. 30、唯学書房、2024年、第9章担当、共著
- ・藤田利久・青木雅幸・西崎有多子・森久子『改訂新版 英語で学ぶオフィスコミュニケーション』西文社、2019年、第11章・第12章担当、共著
- ・西崎有多子・鈴木由季子・久保田香直・加藤拓由・山田幸子・岡井崇・藤田しおり・鷹巣雅英・清水万里子・山下桂世子（以上執筆者）、川村一代編著『1日10分 語彙・表現がしっかり定着！小学校外国語アクティビティ50』明治図書、2019年2月、アクティビティ9・14・21・29・35担当、共著

- ・今津孝次郎・西崎有多子・白井克尚・中島弘道・新實広記・伊藤龍仁・柿原清治・伊藤数馬『教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の実践研究』地域創造研究叢書 No. 30、唯学書房、2019年2月、113頁の内、第2章担当、共著
- ・小学生のための英語教育研究グループ著『英語好きな子に育つたのしいお話 365』誠文堂新光社、2016年12月、416頁の内7頁（7編）を担当、共著
- ・西崎有多子『国語と英語の連携を意識した授業を考えるー小学校におけることばの教育の相乗効果をめざしてー』三恵社、2016年3月、170頁、単著
- ・西崎有多子・古市久子・金澤延美・加藤拓由・藤重育子『ことばでつなぐ子どもの世界』地域創造研究叢書 No. 25、唯学書房、2016年3月、137頁の内、第6章担当、共編著

(学術論文)

- ・西崎有多子・山本かほる「小学校における「資質能力目標」明確化による授業改善ー“この授業で何ができるようにするか”に着目して国語と英語を考えるー」『東邦学誌』2019年6月、第48巻、第1号、pp. 91-104、共著 URL: [https://aichi-toho.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=568&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=21](https://aichi-toho.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=568&item_no=1&page_id=13&block_id=21)
- ・西崎有多子「小学校教員養成課程における授業実践に必要な英語力の養成一次期学習指導要領を踏まえたアクティブラーニングをとおしてー」『東邦学誌』2018年12月、第47巻、第2号、pp. 119-125、単著
- ・西崎有多子「小学校教員養成課程における「小学校英語教育法」への段階的学びを考えるー苦手意識の克服と指導時の不安軽減をめざしてー」『東邦学誌』2017年12月、第46巻、第2号 pp. 69-77、単著
- ・西崎有多子「小学校英語を指導する際に押さえておきたいポイントー小学校教員養成課程における限られた条件の下でー」『東邦学誌』2016年12月、第45巻、第2号 pp. 25-36、単著

(学会発表)

- ・西崎有多子「小学校英語における paraphrase（言い換え）活用の可能性」小学校英語教育学会、第19回小学校英語教育学会北海道大会（全国大会）、北海道科学大学、2019年7月21日、単独
- ・西崎有多子「小学校教員養成課程における「小学校英語教育法」のアクティブラーニングを考えるー教材の世界から一歩踏み出し、自分らしく楽しく創造するー」小学校英語教育学会、第18回小学校英語教育学会長崎大会（全国大会）、長崎大学、2018年7月29日、単独
- ・西崎有多子「小学校教員養成課程における「小学校英語教育法」への段階的学びを考える」小学校英語教育学会、第17回小学校英語教育学会兵庫大会（全国大会）、神戸市外国語大学、2017年7月30日、単独
- ・西崎有多子「小学校で英語を教える際に押さえておきたい英文法ー小学校教員養成課程の限られた条件の下でー」小学校英語教育学会、第16回小学校英語教育学会宮城大会（全国大会）、宮城教育大学青葉山キャンパス、2016年7月24日、単独
- ・西崎有多子「小学校外国語活動と小学校英語教科化への今とこれから」日本メディア英語学会、中部地区第67回研究例会、愛知大学名古屋キャンパス、2016年7月9日、単独

(特許) なし

(その他) なし

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

なし

#### ○所属学会

小学校英語教育学会、日本児童英語教育学会、大学英語教育学会、中部地区英語教育学会

#### ○自己評価

コア・カリキュラムに基づく小学校英語関連科目において、いくつかの改善を行った。「小学校英語教育法」においては、学生個人の模擬授業に対する同じUnitを担当するグループ単位での事前指導を毎週時間外に長時間を割いて行い、指導内容とそれに対する指導方法について議論し、指導を徹底した。それにより、学生は自信を持って模擬授業を行なうことができた。後半は、ALTやJTEを想定した担任との模擬授業を行ない、ペアで授業を行なうことに伴う困難の認識と克服に挑戦した。模擬授業に対する学生のチェックシートの内容や、模擬授業直後の意見交換において、学生たちの授業評価の観点やコメントが、回を重ねる度に向上していくことが見て取れた。学生たち自らの気づきに基づく改善が多く提案され、成長が観られた。

学生指導に時間をかけたこともあり、学会発表などでは成果を出すことができなかった。

### III 大学運営

#### ○目標・計画

##### 【目標】

教務委員会委員、キャリア支援委員会委員、初等教育コース責任者として、職責を果たす。

##### 【計画】

教務関係の事項に精通し、主に教育学部の教務関連事項に問題が起きないように、常に配慮する。キャリア支援に関する指導に注力する。初等教育コースの運営について、教育実習（小学校）をはじめとする、教職課程の諸問題に対応する。

#### ○学内委員等

教務委員ならびにキャリア支援委員として、委員会での情報を迅速に学部の先生方に伝達した。民間企業への就職希望者について、キャリア支援担当職員と連携して希望が叶うよう努めた。

#### ○自己評価

概ね役割を果たすことができた。

### IV 社会貢献

#### ○目標・計画

##### 【目標】

学会やその他の研究会や勉強会における貢献。

##### 【計画】

対面とオンラインを併用し、行動範囲をコロナ禍前に戻して、積極的に参加する。

#### ○学会活動等

特になし。

#### ○地域連携・社会貢献等

特になし。

#### ○自己評価

あまり貢献できなかった。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学会交流、自己研鑽等）

自己研鑽については、主にオンラインでの学会や研究会への参加を行った。

VI 総括

コロナ禍以前に比べて、小学校現場での研究授業や研究発表の機会が極めて少なくなっており、学生を小学校英語に特化した小学校への訪問も行うことができなかつたことがとても残念である。一方で、以前に比べて学生の研究室の利用ができるようになり、導入した大きなモニターを有効利用できた。次年度は、より現場の状況の把握に努めながら、更に学生自身の実力や指導力向上、夢の実現に注力したい。

以 上